

月報 シオン山

2024年5月5日発行 (No404)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残るその中で最も大いなるものは、愛である。

コリントの信徒への手紙一 13章13節

「すべてのことに感謝」

千葉敦子

この春、何かしら新しい生活をスタートさせたという方もいらっしゃるでしょうし、そうでなくても、新たな年度が始まり、心に何か軽やかなものを感じながら前向きに歩みを進めておられる方も多いかもしれません。シオン山教会は、2024年度、引き続き無牧師のままの厳しい船出となってしまいましたが、教会員お一人お一人のこの一年が主に祝福されたものとなるよう、共に祈りつつ歩んでいきたいと思えます。

私は、学校に勤めていますので、春は入学の季節であると同時に、卒業、別れの季節でもあります。この春の卒業生は、学校生活のほとんどをコロナ禍で過ごしたことになります。そのため、大きな学校行事のほとんどが中止になったり、修学旅行の行き先が近い場所に変更されたり、お昼休みの交わりでさえ制限されたりしてしまいましたから、様々な悔いの残る学校生活になったのではないかと想像していました。ところが、卒業のとき彼女たちが口にしたのは、手にできなかったものへの残念な気持ちではなく、ほんの些細なことを楽しんで学校生活を充実させていたことや、ちょっとした周りの優しさに支えられたことに心から感謝する言葉でした。その柔らかな眼差しに感動する卒業式、謝恩会でした。

先日、朝のテレビ番組に女優の吉田羊さんが出演されていて、「感謝ノート」なるものをつけているというお話をされていました。私たちは、「日記」と銘打ってしまうとどうしてもその日一日の中で気持ちが乱されたことや悔いが残ったことなどネガティブなことも書き連ねてしまいますが、「感謝ノート」にはネガティブなことは書かず、気持ちの良いお天気だったこと、いただいたお菓子がおいしかったこと、ちょっとした言葉にほっこりしたことなど、小さなことでよいので有難いと思ったことへの感謝を日々つづるのだそうです。「すべてのことにおいて感謝しなさい」というみ言葉を行うことは、なかなか容易なことではありません。が、私たちが、足りないものを数えるのではなく、日々与えられているものに目を向け感謝することを忘れてはいけないのだと改めて教えられました。

この春、もう一つ感謝する出来事がありました。五十数年前、私が小学校四年生だったときの担任の先生から連絡をいただいて、なんとその頃に私が書いた日記帳をお持ちくださったのです。拙いながら小学生の自分が書き綴った記録をこの年になって読むと、自分が周りの方々や家族からどんなふう育てられたのかがよくわかって、改めて有難く感じました。子どもの頃は当たり前だと思っていたことが、決してそうではないことが今ならばよくわかります。すべてが感謝です。

「いつも感謝していなさい。キリストの言葉があなたがたのうちに豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。」

(コロサイの信徒への手紙 3 : 15 ~ 17)

今年度も、お互いに支え合いながら、教会としてみ心にかなう歩みが続けていければと思います。